

論壇

揺れる世界の金融市場

先週後半からトルコの通貨リラの暴落で、世界の金融市場が揺れている。トルコの動きなど、遠い国の話のように思う人も多いだろうが、世界経済は複雑な形でつながっており、離れた場所で起きた動きでも、プロの市場関係者は注目するのだ。

今回のトルコの動きは、トルコで米国の牧師が逮捕されたことに端を発している。米国とトルコは非難の応酬となり、米国はトルコに対して鉄鋼やアルミの関税を2倍にすると表明している。トルコはNATO（北大西洋条約機構）

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

のメンバーであり、欧州の安全保障の重要な位置を占めている。そのトルコと米国の関係が悪化していることは深刻な問題だ。

ただ、当面は経済にその影響が大きく及んでいる。トルコの通貨が暴落したのは、資金がトルコから流出しようとしているからだ。こうした動きは、他の新興国にも

トルコ通貨暴落と二つのリスク

広がる可能性がある。すでに、ロシア、アルゼンチン、南アフリカなどの新興国の通貨は資金流出の影響を受けつつあるが、これらの通貨に今後どのような影響が及ぶのかが注目される。

トルコは欧州と緊密な経済関係にあり、欧州の金融機関はトルコ

に巨額の融資を行っている。トルコの通貨危機を受けて、欧州の株価が大きく下げたのは気になる動きだ。欧州だけでなく、米国の株式市場もトルコ危機を受けて下落する動きを見せた。世界全体のリスクが高まるということになれば、円レートも円高に振れる。

今後の動きを予想するのは難しい

いろいろな政治リスクが考えられるが、経済リスクも大きい。トルコのリラが暴落したように、中国の人民元の動きにも注目すべきだろう。

新興国に資金流出懸念

もう一つのリスクは、新興国リスクだ。世界的な景気回復で、先進国では金利上昇の動きが始まっている。特に、トランプ政権の下で大胆な景気刺激策を続ける米国では、その動きが顕著である。こうした先進国の金利上昇によって、新興国から先進国への資金流出の懸念が大きくなっている。あまり急速に資金が流出するようなことがあれば、新興国の通貨の暴落ということにもなりかねない。今回のトルコのケースは政治的な

問題もあるので特殊ではあるが、すでに触れたロシア・アルゼンチン・南アフリカなどの通貨は、年初からかなりの規模で下落が続いている。

誤解のないようにしたいが、世界経済は今大変に好調な状況が続いている。そんな時にリスクの話をするのは経済学者の悪い癖だと言われそうだが、好事魔多しというのが、経済の現実でもある。今回のトルコリラのショックは、特定の国の特殊な問題というのではなく、世界経済が抱えているリスクを再認識させる重要な出来事であると考えるべきだろう。為替レートはいったん動き始めるとその動きは速い。円レートについては、円高に急速に振れることが、当面避けたい最大のリスクだろう。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。